

平成 25 年度 全国獣医師会会長会議の開催

平成 25 年 10 月 25 日、平成 25 年度全国獣医師会会長会議が明治記念館「孔雀」において開催された。

本会議では、協議事項として「全国獣医師会会長会議における常設正副議長（仮称）の設置に関する件」を協議したほか、説明・報告事項として、①「政策提言活動等に関する件」、②「当面の課題への対応に関する件（特別委員会の設置を含む）」、③「部会委員会に関する件」、④「東日本大震災被災対応に関する件」、⑤「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン（環境省）に関する件」、⑥「2013 動物感謝デー in JAPAN 開催に関する件」、⑦「日本獣医師会獣医学術学会年次大会開催に関する件」、⑧「その他の報告・連絡事項」について協議がなされた。平成 25 年度全国獣医師会会長会議の議事概要は下記のとおり。

平成 25 年度全国獣医師会会長会議の議事概要

I 日 時：平成 25 年 10 月 25 日（金） 14:30～18:00

II 場 所：明治記念館 2 階「孔雀」

III 出席者：

【地方獣医師会】

55 地方獣医師会会長ほか

【日本獣医師会】

会 長：藏内勇夫

副 会 長：近藤信雄，砂原和文

専務理事：矢ヶ崎忠夫

地区理事：高橋 徹，山内正孝，高橋三男，小松泰史，

土屋孝介，三野營治郎，南 三郎，

上岡英和，坂本 紘

職域理事：酒井健夫，麻生 哲，細井戸大成，

森田邦雄，木村芳之

監 事：岩上一紘，玉井公宏，波岸裕光

IV 議 事：

【協議事項】

全国獣医師会会長会議における常設正副議長（仮称）の設置に関する件

【説明・報告事項】

- 1 政策提言活動等に関する件
- 2 当面の課題への対応に関する件（特別委員会の設置を含む）
 - ① 狂犬病予防体制整備特別委員会
 - ② 女性獣医師支援特別委員会
 - ③ 日本医師会との連携推進準備委員会
- 3 部会委員会に関する件
- 4 東日本大震災被災対応に関する件
- 5 災害時におけるペットの救護対策ガイドライン（環境省）に関する件
- 6 2013 動物感謝デー in JAPAN 開催に関する件
- 7 日本獣医師会獣医学術学会年次大会開催に関する件

8 その他の報告・連絡事項

V 会議概要：

【会長挨拶】

藏内会長から、大要次のとおりの挨拶がなされた。

【藏内会長挨拶】

本日は、台風で大変足元の悪い中、全国獣医師会会長会議にお集まりをいただき厚く御礼申し上げます。新しい執行部として初めての会長会議であるのでよろしくお願ひしたい。

冒頭、黙祷を捧げていただいたが、五十嵐幸男・元日本獣医師会会長におかれては、日本獣医師会の発展に多大なご貢献をいただいた。心からご冥福をお祈り申し上げます。9月21日には通夜が行われ、私をはじめとして役員一同、参列をさせていただいた。また、翌日の告別式においては埼玉県獣医師会の高橋三男会長に日本獣医師会会長の弔辞を代読いただいたところである。埼玉県獣医師会には大変お世話になり、厚く御礼を申し上げます。

それから、年に一度の大イベントであり、今年で第7回目を迎えることになっていた「動物感謝デー」について、これまで検討委員会、全国の地方獣医師会会長の皆様はじめ、関係団体、協力企業の皆様のお陰で準備万端、整っていたところであるが、2つの台風が明日以降、関東に接近する状況であり、当日開催するかどうかを23日までに判断しなければ、荷物の搬入等、様々な準備に支障が出るということであったので、検討委員会の皆様と協議をさせていただいた結果、中止という決定をさせていただいた。このことについては皆様は大変ご迷惑をおかけするが、危機管理は今一番問われているところであるので、何卒ご理解いただくようお願いを申し上げます次第である。

さて、6月27日開催の第70回日本獣医師会通常総会において、地方会のご支援をいただき第12代の日本獣医師会の会長に就任させていただいた。早速、翌日28

日から活動を開始して、28日には所管の農林水産省の林 芳正大臣へご挨拶に伺い、また、自由民主党獣医師問題議員連盟の麻生太郎副総理にも挨拶へ伺うなど、活動をスタートさせたところである。

また、今年の地区獣医師大会については、お陰様で10月13日に大分で行われた九州地区大会の開催で全国の大会が終了した。なお、中国地区におかれては2年に一度の地区獣医師大会の開催であり、本年は獣医学術地区学会の開催だけであったとお聞きしている。また、中部地区と近畿地区、四国地区の大会が同日の開催であったので、私は四国地区と近畿地区に出席させていただき、中部地区だけは近藤副会長の地元であるので、近藤副会長に出席をお願いしたところである。いずれの地区大会においても非常に真摯に協議をいただき、私ども日本獣医師会に諸々の要望をいただいた。我々執行部としてはスピード感を持ってこれらの処理をしていかなければならないと受け止めているところである。

私は日本獣医師会の会長に立候補するにあたり、いくつかの公約を出させていただいた。その中の主なものとして、狂犬病予防事業の適正化ということを出した。また、人と動物の健康を守るという観点から、我々は国民の理解を得るべきであり、特に人間の健康を守る日本医師会との連携を深めるべきであるという考えから、日本医師会の横倉義武会長と私とで合意に達し、近々、日本医師会と日本獣医師会とで包括的な協定書を結ぶことで準備に入っているところである。

それから、獣医師の処遇改善、これも我々は極めて大切な課題であると考えているので、これについてもしっかりと、政府与党等々と協議を重ねていきたいと思っている。特に、獣医師の偏在、これは地域・職域において偏在がある。このたび四国地区から出された、女性獣医師をもう少し活用すべきであるというご意見等を踏まえ、この女性獣医師の活用に関する特別委員会等も作らせていただきたいと思いますと考えているところであり、本日の会議で皆様にご報告、また、ご意見を賜りたいと思っているところである。

いずれの問題にしても、我々日本獣医師会と地方獣医師会とが同じ方向を向いて、心を一つにして問題解決に当たるということが肝要なことではないかと思っている。そういう意味では、地方会の皆様方のご意見を十二分に、また真摯に我々は受け止めなければならないという気持ちである。

そこで、このことも本日、皆様方にご了承をいただきたいと思うところであるが、この全国会長会議の中で色々な意見を出していただき、その中で全国の皆様方の意見を集約していきたいと私は思っている。そしてこの内容を我々執行役員が協議をしまいたい、そのように考えていることから、この全国会長会議に常設の正

副議長を置かせていただきたい。このことは先の理事会で承認をいただき、本日、皆様方にご報告申し上げ、ご承認をいただきたいと考えている次第である。

それから、私どもはより高い公益活動を行い、国民の期待に応えるべく、公益社団法人の道をあえて選択した。そういう中で、日本獣医師政治連盟との役割分担も考えなければならないようになった訳であり、このたび、北村直人日本獣医師会顧問に日本獣医師政治連盟の委員長への就任をお願いした。

日本獣医師政治連盟におかれては、早速、活発に的確に行動をいただいております、既に地区獣医師大会で要請を受けたことについて、早速、今できることから手掛けているところである。今後、日本獣医師会と日本獣医師政治連盟とが、日本獣医師会が抱える問題を解決して目標を達成するために、車の両輪となって共に努力をしまいたいと思っている次第である。

それから最後に、来年2月、千葉で学会年次大会を開催するが、私にとって初めての全国大会である。現在、千葉県獣医師会では山根 晃会長を先頭として大変ご苦労をいただいているところであり、是非、盛大に成功させたいと思っているので、私から特に、この学会年次大会に対するご協力を重ねてお願いする次第である。

限られた時間ではあるが、十二分なご審議を賜ることができるよう、また、その後に関係団体を含めた懇親会を予定しているの、その場での色々な意見を直接賜ることができれば幸いと思っている。よろしくお願いを申し上げます、会長の挨拶とさせていただきます。

【座長選任】

まず、藏内会長が仮座長に就任して、以下のとおり議事が進められた。

【議 事】

〔協議事項〕

全国獣医師会会長会議における常設正副議長（仮称）の設置に関する件

矢ヶ崎専務理事から、今後、全国獣医師会会長会議と日本獣医師会の一層の連携・連帯の強化、また、全国会長会議の意見が日本獣医師会の理事会での協議に十分反映できるようにするため、全国会長会議には常設の正副議長を置くこと、この正副議長は地区理事の中から互選により就任することについて説明が行われ、以下の質疑等が行われた。

意見1：あえて常設の正副議長を置く必要はあるのか。理事の中に「全国会長会議担当理事」を置くことによって対応できないか。

回答1：この全国会長会議において正会員である地方獣医師会の会長と執行部とが直接会って意見交換を行うことは非常に重要なことである。これからは、狂犬病の問題をはじめとした極めて難しい問題を論議して、日本獣医師会全体が意思統一しなければならない。今後、この難しい問題について皆様からのご意見を直接お聞きして、そして全国会長会議において意見の集約を行いたいことから、専任の正副議長を置くということが主旨であり、ご理解いただきたい。

意見2：新たに「常設議長」のような語句が出てくるとわかりにくくなるため、できるだけわかりやすくしてほしい。

回答2：定款施行細則の見直しを含め、今後整理したい。

意見3：時と場合によって、地方獣医師会寄りであったり執行部寄りであったりできるような方を議長・副議長に選出いただき、地方獣医師会と執行部の距離を近づけるような組織にしていれば、日本獣医師会はますます発展するのではないか。

続いて藏内会長から、第4回理事会において地区理事による互選を行った結果、議長には高橋三男埼玉県獣医師会会長、副議長に三野營治郎三重県獣医師会会長が選出されたことが報告され、満場一致で承認された。

続いて、高橋三男埼玉県獣医師会会長が議長に、三野營治郎三重県獣医師会会長が副議長に就任し、それぞれ次の内容の挨拶が行われた。

〔高橋議長挨拶〕

挨拶の前に、我が埼玉県獣医師会の会長でもあった、そして日本獣医師会の会長もお務めいただいた五十嵐幸男先生のご逝去に際し、藏内会長はじめ全国の地方獣医師会会長の皆様方、そして関係者の皆様方に供花及び多数のご弔問をいただいたことを、地元埼玉を代表して厚く御礼を申し上げます。

さて、ただいま常設議長への就任にあたって貴重なご意見をいただいたところである。私も今、振り返ってみると、杉山文男先生が日本獣医師会の会長の時に当時の日本小動物獣医師会会長の宮本先生が日本獣医師会の小動物委員会の委員長で、私が副部会長を仰せつかった。そして、その後、五十嵐幸男会長の際には、日本獣医師会の組織財政委員会の特別委員会を立ち上げさせていただいたところであり、東京大学の副学長の林 良博先生が委員長で、そして私が副委員長を仰せつかって6年間という貴重な時間を経験させていただいたところである。そして、山根義久会長の時には、8年間、地区代表

理事としてお世話になった。

私も皆様と同じように、15年間埼玉県獣医師会の会長を務めさせていただいているところであるが、この15年間、全国獣医師会会長会議という、総会とともに年2回の言うなれば貴重な全国の地方獣医師会会長と日本獣医師会との大きな絆を結ぶ大事な会合でもあった。しかし、俄か議長による会議の運営で何一つ結論も出ず、何事においても時間切れとなり、ただ単に全国の会長が集まって2時間、3時間と時間を費やして、意見を言うだけ、執行部は聞くだけ、私も皆さんと同じ立場で15年間の間には何度か質問もさせていただいたところである。そういった流れの中で、先程、藏内会長が仰ったとおり、やはり全国会長会議で、今こそ日進歩もとより秒進分歩の社会情勢の変化に、スピード感を持って日本獣医師会があらゆる角度から地方の声をしっかりと日本獣医師会で受け止めて、そういう機会を年2回とは限らず3回4回、開催することによって、さらに地方獣医師会の強化充実があって、日本獣医師会の発展向上がある。そして私たちも地方会の会長としてただ単に日本獣医師会の会費を納入するだけで地方会の会長、役員を務めるのではなく、その執行部と一体感を持って共有したこの問題を検討する機会があっても良いのではないかと常々考えていた。新たに藏内会長の下、今回このような形で、私、そして三重県獣医師会の三野会長ともども、この大役を務めたい。新しく常設という今までの前例を打ち破った形で藏内会長が成立された議長である。先人から伝えられた言葉で、人が地位を作る、地位が人を作る、こんなことも、先人からよく耳にした言葉がある。そういうことで、しっかりと皆さん方とそして執行部と橋渡しができる高橋三男でありたいという風に思っている。

どうか微力ではあるが、皆様方の意見を十分に聞きながら、そして執行部に伝えて、自らもその問題解決に全力でまい進することをここにお誓い申し上げ、なおかつ議長としては私も理事という立場でもある。しかし全国獣医師会会長会議の常設議長となれば、厳正公平なる議事進行をお誓い申し上げ、議長を務めさせていただきたいと思う。皆様方の温かいご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

〔三野副議長挨拶〕

ただいま、全国会長会議の常設の副議長ということでご指名をいただいた。藏内会長の下で新しい方向で獣医師会の方向が決まり歩いていく所存である。皆様方ともども一生懸命努力して、良い獣医師会でありたいという想いを念頭に置いて一生懸命務めたい。そういったことをお約束してご挨拶に代えたい。

【説明・報告事項】

1 政策提言活動等に関する件

矢ヶ崎専務理事から、政策提言活動等に関する件（①緊急災害時における被災動物対策としてのマイクロチップの普及推進について、②人と動物の共通感染症対策の整備・充実に係る獣医師と医師の連携について、③女性獣医師の就業支援及びキャリアアップの推進について）について説明が行われ、以下の質疑が行われた。

質問1：飼育動物の頭数把握について、現在の多くは一民間企業による統計数が利用されているが、これは国が調査を行った公式な数字ではない。国内における飼育動物の正確な頭数を把握するためにも、国勢調査の際に飼育頭数を調査する項目を増やすよう国に対して働きかけを行ってはどうか。

回答1：これまで国勢調査で飼育頭数を調査するように働きかけてきたが、総務省としては国勢調査を簡素化する方向性であり壁が厚かった。何らかの方法で犬猫の頭数が把握できないか、今後研究を進めていきたい。

2 当面の課題への対応に関する件（特別委員会の設置を含む）

矢ヶ崎専務理事から、重要性かつ今後の活動推進を考慮して会長の下に設置する特別委員会（①狂犬病予防体制整備特別委員会、②女性獣医師支援特別委員会、③日本医師会との連携推進準備委員会）の設置目的や検討事項、今後の当面の課題への対応について説明が行われた後、藏内会長と酒井理事から、特別委員会の設置の経緯を含めた内容の説明が行われ、以下の質疑が行われた。また、岩手県獣医師会の多田会長から、3,000名の飼い主に対して行った狂犬病注射に関するアンケートの集計結果について報告が行われた。

質問1：日本医師会との対応にあたる日本獣医師会の担当役員については、先方の担当役員に応じて弾力的な対応を行うよう、検討してはどうか。

回答1：本件について、日本医師会からは現在、小森常任理事にご対応いただいているが、日本医師会の常任理事は副会長クラスであるので、現在、特命で対応している本会の酒井理事には、今後何らかの役職に就いていただき、日本医師会との交渉に臨んでいただくことが、ひいては本会の利益につながると考えている。しかしながら、役職は総会を経て審議することとなっているので、今後どのように対応を進めるか検討する。

質問2：女性獣医師支援特別委員会では、女性獣医師の支援だけでなく雇用する側である団体等への措置についても検討してほしい。

回答2：この特別委員会では、雇用される側の女性獣医師とそれを雇用する側である団体等の両方について検討を進める予定であり、また、職場環境に関しても併せて検討することを予定している。

質問3：女性獣医師の獣医事への従事割合について、わかる範囲で教えてほしい。

回答3：農林水産省の調査において、獣医師の12%である約4,500名が獣医事に従事していないという結果が出ている。まずは実態を正しく把握することが重要であり、これにより、抽象的な文言ではなく具体的な数字を示した要望内容としたいと考えている。

質問4：狂犬病予防体制整備特別委員会においては、昨年、地方獣医師会に対して行われた狂犬病に関する調査で出された地方会の意見を十分に踏まえた上で、検討を進めてほしい。

回答4：アンケートの集計結果については近々に取りまとめて地方会に報告する予定である。また、特別委員会においてもこの結果を反映して検討を進めたい。

3 部会委員会に関する件

矢ヶ崎専務理事から、今期部会委員会の構成、検討テーマ等について説明が行われ、以下の質疑が行われた。

質問1：医師における生涯教育は義務であるが、獣医師の生涯研修は努力規定であることが獣医師生涯研修事業の参加者数が伸び悩んでいる原因であると思われるので、獣医師に生涯研修が義務付けられる方向で対応を進めてはどうか。

回答1：魅力ある獣医師の生涯研修にするためにはアウトプットの部分が重要である。どのような魅力あるアウトプットを見出すか、獣医師生涯研修事業運営委員会では前期に提出した報告を踏まえ、今期の本委員会ではさらに具体的に進めていくので、今後ともご指導いただきたい。

質問2：処遇改善については欧米や医師と比較して考えた場合、獣医師はより専門的に特化して本来行うべき職務を務めること、獣医師がマネージャーやスーパーバイザーのような立場となること、動物看護師との補完・連携、分野ごとではなく横断的に要請活動を行うことが必要ではないか。

回答2：公務員勤務獣医師の処遇改善は進んでいるが、

抜本的な対策には国における給与基準の見直しが必要なことも事実である。そのような中で、今後どういったことができるのか、ご意見を踏まえて検討を進めていきたい。

4 東日本大震災被災対応に関する件

矢ヶ崎専務理事から、東北関東大震災動物救護活動等支援義援金の募集と配分について説明が行われた後、以下の質疑が行われた。

質問1：大島で発生した台風被害への対応として、獣医師会でも対応をするよう一般市民から要望があった。東日本大震災の基金は4,800万円の残金があったとのことであるが、これを他の災害に利用することはできないか。

回答1A：日本獣医師会としては将来、拠出できるようにしたいと考えている。

回答1B：東京都獣医師会では既に大島における災害へ対応しており、都とも連携して避難対応を行った。なお、三宅島の噴火の際に東京都獣医師会が立てた基金は、5年が経過してから他の災害に利用した。

質問2：災害があった際、被害のあった地方会に対する日本獣医師会からの被害状況の確認等はどのような対応を行っているのか。

回答2：被害のあった地方会へは、日本獣医師会事務局からお見舞いの連絡を行い被害状況の確認を行う等、常に迅速な連絡対応を心がけている。

5 災害時におけるペットの救護対策ガイドライン（環境省）に関する件

矢ヶ崎専務理事から、環境省が公表した「災害時ペッ

ト救護対策ガイドライン」の内容について説明が行われ、さらに現在、環境省の中央環境審議会動物愛護部会の委員である木村理事から補足説明が行われた後、福岡県において県獣医師会と県との間で締結された災害時における愛護動物の救護に関する協定について説明が行われ、続いて以下の質疑が行われた。

質問1：各都道府県では、既に災害時における協定を締結している地域もあるが、広範囲における災害の発生を想定し、日本獣医師会が地域間の相互連携の音頭を取ってはどうか。

回答1：獣医師会と各自治体とがそれぞれの役割を明確にして災害時の対策を進めて行けるよう、研究していきたい。

6 2013動物感謝デー in JAPAN開催に関する件

台風の接近により中止となった2013動物感謝デー in JAPANについて、矢ヶ崎専務理事から経緯と対応が説明された。

7 日本獣医師会獣医学術学会年次大会開催に関する件

矢ヶ崎専務理事から、平成25、26年度の日本獣医師会獣医学術学会年次大会開催計画が説明された後、千葉県獣医師会の山根会長から、平成25年度獣医学術学会年次大会（千葉）への参加協力が依頼された。

8 その他の報告・連絡事項

その他の報告・連絡事項として、矢ヶ崎専務理事から当面の日本獣医師会関係主要会議等の開催日程が報告された。